



# ARIMASS Letter

[ Association for Risk Management System Studies ]

危機管理システム研究学会 2001年3月

第4号

## 危機管理システム研究学会第1回年次大会開催にあたって

### 第1回年次大会実行委員長

高木 新太郎（成蹊大学）

当学会（略称アリマス）の設立総会が成蹊大学で開かれたのは、昨年の4月22日である。第1回年次大会も本大学で開催され、皆様と再会できることをたいへん楽しみにしている。昨年、有益な基調講演後の懇談会で、今までお会いしたことのない会員の方々とお話をする機会を得たからである。その時に、危機（リスク）管理には多様な局面があり、それゆえにこの学会が私の予想以上に学際的で実践的な側面を持つことを知った。

私はもともと経済統計学が専門であるためリスクというハイリスク・ハイリターンで代表される経済リスク、統計学の背後にある確率論、最近のリスクと企業評価、従来からの保険の考え方などを思い出す。また最近では個人的に企業の産業立地、家計の住宅立地に関心があるが、企業（家計）の経済立地の選択に当たっても、自然リスク（地震、気候等）とともに、広い意味の地域環境リスク（犯罪・火災・交通渋滞等の可能性、住環境等）、将来リスク等が関係する。こうしたリスク（および不確実性）と経済的要因産業の製品特性、販路、家計の所得水準、資産価格等を勘案し、経済立地が決定されよう。

そうして経済主体の活動にはリスク・不確実性はつきものである。IT時代に入り、情報量が増加すると、リスクが減少する側面もあるが、新たなリスクが発生し、ますます多様化する可能性が高い。不確実な事象の拡大と確率の不確実性が増すように思え、今後危機管理の重要性が高まるものと思われる。

会則の第3条（目的）、第4条（事業）から、アリマスは危機管理システムの「教育」と「研究」を重視する。両者は相互に関連しているが、危機管理の社会還元、新しい危機への対策等を考える時、この判断は正しいと思っている（両者ともに必要）。さらに、アリマスはシステム（体系）まで視野においており、学会の果たす役割は大きい。

学会も「立ち上げ」時が重要である。もっともリスクが高い時期だからである。しかし今回のプログラムをみると、記念講演をはじめ魅力的な課題の研究発表が並ぶ。研究発表は分科会の日頃の活動成果が大きいようにみえる。研究（教育の成果等も含め）発表が多ければ、アリマスの社会的意義も増す。第1回年次大会の成功を信じております。

### 目次

第1回年次大会開催にあたって.....1	分科会報告 ..... 3
第1回年次大会プログラム..... 2	事務局からのお知らせ..... 4

# 危機管理システム研究会第1回年次大会プログラム

開催場所 : 成蹊大学 8号館

期 日 : 2001年5月19日(土)、受付開始:9:30

統一テーマ:「21世紀の危機管理」

10:00~10:30 会 員 総 会 全体進行司会:樋口 修一郎

10:35~17:20 研究発表報告・記念講演

【10:35~12:00 研究発表・報告(セッション1)】 座長:島田 公一

10:35~10:45 危機管理教育実践分科会活動報告:後藤 和廣(同分科会世話人)

第1報告:10:45~11:00

テーマ:『危機管理対応の階層構造』

報告者:指田 朝久(東京海上リスクコンサルティング株)

第2報告:11:00~11:15

テーマ:『リスク認識の変遷とリスク対応についての考察』

報告者:鈴木 敏正(株)日本総合研究所

第3報告:11:15~11:30

テーマ:『リスク・リスク情報の動的特性について』

報告者:坂 清次((株)三菱総合研究所)

11:30~12:00 問題提起及び質疑討論 (座長)

12:00~13:00 休憩・昼食

【13:00~13:45:記念講演】

テーマ:『危機管理システム規格への展開』

講演者:矢野 友三郎(経済産業省)

【13:45~15:25 研究発表・報告(セッション2)】 座長:辻 純一郎

13:45~13:55 リスクマネジメント研究分科会活動報告:指田 朝久(同分科会世話人)

第4報告13:55~14:10

テーマ:『世紀末諸事件にみる広報危機管理の検証』

報告者:池内 正英(安全工学株)

第5報告14:10~14:25

テーマ:『我が国安全のあるべき姿』

報告者:本位田 正平(ニッセイ損害保険株)

第6報告14:25~14:40

テーマ:『購買部門の進化とリスクコントロール』

報告者:竹澤 史江(早稲田大学大学院)

第7報告14:40~14:55

テーマ:『企業防災対策の現状と課題 防災対策の実効性を高めるために』

報告者:長井健人、鈴木敏正(株)日本総合研究所

14:55~15:25 問題提起及び質疑討論 (座長)

15:25~15:40 休 憩

【15：40～17：20 研究発表・報告（セッション3）】 座長：山本 正隆

15：40～15：50 リスク情報交流分科会活動報告： 鈴木 敏正（同分科会世話人）

第8報告 15：50～16：05

テーマ：『鉄道輸送のリスク管理のあり方に関する一考察』

報告者：福田 久治（（財）鉄道総合技術研究所）

第9報告 16：05～16：20

テーマ：『危機管理のための鉄道VRシミュレータ開発』

報告者：福田久治、柴田 徹（（財）鉄道総合技術研究所）

第10報告 16：20～16：35

テーマ：『危機管理へのシステム工学的なアプローチ

その1.災害における緊急時対策のケース』

報告者：萬金 修一（有あけぼの）、池内 正英（安全工学株）

第11報告 16：35～16：50

テーマ：『停電時のリスク対策』

報告者：豊田光雄、岡本洋三、松本外左（東京ガス（株）エネルギー技術部）

16：50～17：20 問題提起及び質疑討論 （座長）

17：30～19：00 懇親会 司会：島田 公一

第1回年次大会のご案内状は3月末日に、会員の皆様にお送りする予定です。ご予定を調整され、ご出席をお願い致します。

\*\*\*\*\*

## 分 科 会 報 告

### 【危機管理教育実践分科会】

世話人：常任理事 後藤 和廣（三井海上基礎研究所）

<活動報告>横浜市立大学の国際文化学部では、2001年度、総合講義「世界のなかの日本 21世紀の危機管理と地球公共財の供給」が開講されます。この講義に当学会へ協力要請があり教育実践分科会が中心となり、取り組んできました。

最終的に15コマのうち5コマの講師を推薦し講義実施が決まりました。また同大学医学部の総合講義でも1コマ講義を担当します。

講師（敬称略、括弧内は講義内容）：村上處直（大震災不安と総合都市計画、欧米の総合危機管理システム）、指田朝久（震災等、巨大被災化への損保システム）、本位田正平（危機管理と日本的メンタリティー）、野村修也（金融のグローバル化と危機管理体制）、後藤和廣（リスクマネジメントとコーポレート・ガバナンス）、辻純一郎（医療過誤の被害者救済制度）。

総合講義は、同大学内外から広く講師を集め理論と実際を学べる講義にする主旨で行われます。

### 【リスクマネジメント・システム研究分科会】

世話人：常任理事 指田 朝久（東京海上リスクコンサルティング）

1.開催日時、場所：2月7日水曜日 18時30分から20時45分まで、新東京法律事務所

2.出席者（13名）：徳谷、樋口、土田、小澤、野村、吉川、池内、坂、三野、藪、石川、長井、指田

<第4回会合報告>今回から具体的な企業を想定し、リスクマネジメントシステムJIS規格を具体的に読みながら意味をくみ取ることを開始し、「最高責任者の役割」まで読み進みました。一つ一つの意味につき白熱

した議論が続く研究会の意義をあらためて確認しました。次回以降も同様に各要求事項の意味を確認していきます。

次回開催は4月4日水曜日、午後18時30分から日立製作所本社（お茶の水）で開催しますのでご予約願います。

## オピニオン

この研究会へは、第2回目から参加するようになりました。これまで、同じ業界内部での情報交換が主

でしたが、研究会への参加によって多業種の同じ目的を持った専門家の皆様と同じ土俵で議論する機会を得ることが出来ました。

今回のWGから「JIS リスクマネジメントシステム構築の為の指針」をメンバーで読み直し、規格・基準の位置付けと、運用を目指した実質的な活動となりました。Mechanical Integrity は、リスクマネジメントの一部であるとのこれまでの理解が再確認されました。

この研究会は、広く社会にリスクを認知させ、住みよい社会を作ることが、次世代へ残せる成果と考えています。  
会員 野村 徹（ジャパンエナジー・リサーチセンター）

## 【リスク情報交流分科会】

世話人：常任理事 鈴木 敏正（日本総合研究所）

<活動報告> どのようなリスク情報を扱うかで活動内容が、違ってくるのではないかとの認識から、再度、活動内容の深化というテーマで議論を行なった。

（問題設定）活動内容の深化

活動の局面として、次の三つが想定出来る。

危機が表面化しつつあるものに対して、被害拡大阻止のための提言、シナリオの公表、ワーニング等を行なう。

未だ、リスクのままであるが、それが変化しつつあることを公表する。

未だ、一般には気付いていない新しいリスクについての提言。

議論の結果、上記のいずれに対しても分科会の対象として重要との再認識を行なった。当面、これらに関わるものであれば、分科会メンバーのMLでのテーマ提示に従って、クローズな議論を進めていく事とした。とりわけ、危機が表面化・・・に該当するものから始めようということ、過日、ML上で、“事故と危機”についての議論を行なった。

タイムリーなテーマの提示を心がけ、斬新で正当な考え方に基づいた成果を上げて行きたいと考えています。

## 事務局からのお知らせ

### 1. 分科会連絡先

第1分科会（教育実践）：世話人：後藤和廣

第2分科会（RMS）：世話人：指田朝久

第3分科会(情報交流)：世話人：鈴木敏正

### 2. 新入会員紹介

氏 名	所属機関・職 名
五 味 昌 樹	成蹊大学経済学部経営学科(学生)
植 草 太 郎	成蹊大学経済学部経営学科(学生)

### 3. 住所・所属等変更の連絡方法

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には、変更前と変更後を並記のうえ、必ず文書にて事務局宛ご連絡ください。

発行 危機管理システム研究学会

〒221-0052 横浜市神奈川区栄町1-19-403

.045-440-6778 FAX. 045-440-6777

e-mail: [arimass@muh.biglobe.ne.jp](mailto:arimass@muh.biglobe.ne.jp)

2001年3月15日発行

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/>

印刷 株式会社 櫻 栄 .03-3288-5571